

私にとって山に登るということ

東豊町 藤森 千吹



毎日山を見て育った私は、これまで山に対して特別な思いはありませんでした。初めて興味を持ったのは、高校のバスハイクで行った上高地から見た穂高連峰でした。五月の新緑の季節で、木々の緑と真つ青な空、きらきら光る雪の穂高岳が絵のようで、八ヶ岳を見慣れていた私にとって感動的な景色でした。アルプスという響きが似合う穂高の峰々は遠く憧れる存在でした。

何年かして、叔父に中央アルプスの木曾駒ヶ岳に連れて行ってもらったことがありました。千



4月 残雪の八ヶ岳 (赤岳を望む)

何年かして、夏の山だけではもの足りなくなり、下諏訪山岳会に入会しました。雪の山や岩登り、夏の沢登りなどいろいろな経験をしました。登りきった充実感とともに、可憐さだけでなくたくましさも感じる高山植物、有名な観光地の滝にも劣らない名もない滝、山の向こうのまた山・・・自分の登ってきただ道を見て満足し、森の匂い、枯葉の道、吹いてくる風、川の流れの音に癒され、いつの間にか心が軽くなっています。登っているときは苦しいです。暑かったり寒かったり、立ちくらみや足がつかれることもあります。それでも、行きたいところに行けるといのは幸せです。

山はゆつくりでも歩いていれば登ることが出来ます。人の足は車のように楽に早く、また飛行機のように空を飛ぶことはできませんが、車や飛行機では行くことができない場所に行くことができます。



2010/08/22 町民登山「乗鞍岳」

私は若い頃は頂上に立つことで達成感を感じ、頂上からの展望を楽しみに登りました。年齢を重ねた今、体力的なこともありますが、生活の匂いのある道から登る里山が好きになりました。頂上にこだわらず、季節を感じながら歩く道が楽しいです。人それぞれ、山に登る目的はいろいろありますが、仲間と登れることは幸せだと思います。下諏訪町では山を安全に楽しむことができるよう、町民登山を毎年八月に実施しています。今年是一緒に登りませんか。

自然の素晴らしさを味わう ~登山を通して~

自然の素晴らしさを撮る

西赤砂 白倉 文雄



私がカメラを始めたのは約二十年前、当時はフィルム使用の一眼レフ。家族とか旅行のスナップが主で、思い出作りにシッターを切っていた。

現役当時は仕事で長野県下や山梨全域をまわっており、山国の四季の素晴らしさに何度感動したことか。でもその感動した瞬間が時間が過ぎると消滅してゆく。

それから間もなく、カメラはデジタルになり、持っている一眼レフもデジタルになって、私は現役を退職。現役を離れてから毎日のウォーキング、マレットゴルフを始めたが物足りなく、妻と美術館巡りをする中で、い

ろいろな写真展も見ることがあった。一つひとつの作品が自然界の光や影、色彩が上手に生かされており、自分も花や風景を何とか上手に撮りたいと思い、指導してくれる会を探した。そして諏訪デジカメネットの会のデジカメ講座を知った。講習はデジカメの仕組み、操作実習、撮影実習。パソコンを使つての写真的プリント及び画像処理等も講習するとの事。実は私はアナログ人間で、現役当時事務処理等は全てパソコンで処理をしていたが、事務員と若い社員に任せていたため操作ができないし、ノートパソコンは持ってないし、どうしようと思った。同期受講者の仲間聞いてみるところ、皆さん私同様アナログ人間で、不安がつて入会を迷っておられた。講師の先生から、心

配しなくて良いから一歩ふみ出してみたらとの言葉があり、入会を決め会員となった。パソコンとプリンターを購入し、二年間夢中で受講し指導をいただいた。そして色々な写真展を見て歩くうち、構図のとり方、背景の選択、光の採り方等等、背景の技術を習得した。パソコンで画像処理をするなかで、プリントアウトして自分の撮った写真をみると、以前と異なつて、自然の美しさをより一層表現できるといった気がした。

最近素晴らしい物や美しい風景を見た時、素直に素晴らしいと感じる。その感じたままを、写真を通して見た人に感じられるような写真を撮りたいと思う。冬の厳寒な諏訪湖や湖の小白鳥、周りの山々の雪景色。春の桜や花々。夏の緑と祭り、そして花火。秋の紅葉と落ち葉、そして花々。四季を通じての日の出と夕焼け。

人生にも、そのつど背景があるように、被写体のむこうにもいろいろな背景がある。特に花

を撮る場合、背景により華やかになり、色彩の組み合わせや造形の組み合わせが変わったりして撮影が楽しくなる。撮った写真で感情が伝わるか、豊富なメッセージが伝わるか心配にはなるが、ファインダーをのぞいて、脇役の背景を大切にしよう努力しながら、自然の素晴らしさを楽しみ撮影を続けてゆきたい。



2011夏「原村ソバ畑」

自然の素晴らしさを味わう ~カメラを通して~